

日中韓の連携による教育の質モニタリング ー「キャンパス・アジア」の1次モニタリングー

NIAD-UEシンポジウム 「国際共同教育プログラムの質保証：

日中韓の連携による教育の質モニタリングを通して見えてきたことは」

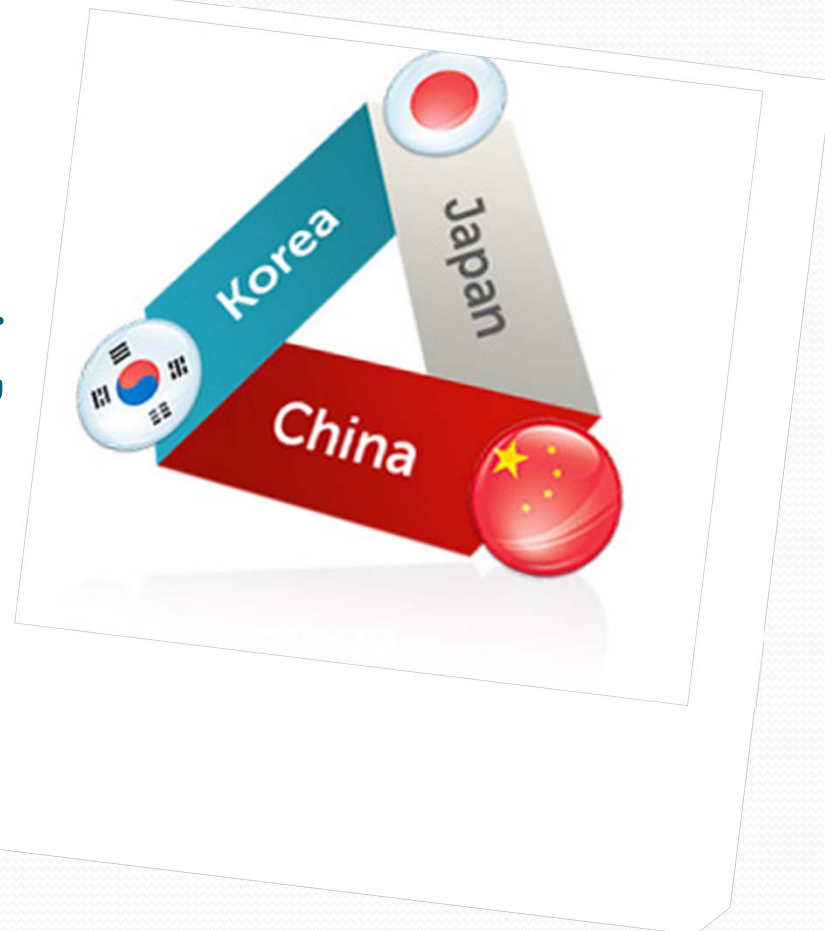
2014年11月27日（木） 於：一橋講堂

大学評価・学位授与機構

本日の話題

- モニタリング実施の背景
- 「キャンパス・アジア」のモニタリング
- 日本の1次モニタリング－手法、基準、スケジュール
- 日本の1次モニタリング結果（概要）
- 中国・韓国の1次モニタリング

モニタリング実施 の背景



モニタリング実施の背景

キャンパス・アジア構想

- ◆ 日中韓の政府が推進する大学間交流・連携の促進
- ◆ 3か国の大学が連携して提供する教育プログラムに対する支援事業の実施（平成23年度～平成27年度*）
 - ⇒ 10のパイロット・プログラムを共同審査により採択

* 日本における支援期間。
日本では「平成23年度大学の世界展開力強化事業」として支援

5年間で、
「キャンパス・アジア」プログラムに
参加する学生

日本に受入れる学生：1,030人

日本から派遣する学生：1,145人

モニタリング実施の背景

キャンパス・アジア構想で推進する連携の特徴

- ◆ 質の伴った国際連携教育
- ◆ 共同教育プログラムを目指す取組み
(ダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリー等)
- ◆ 相互に単位互換の仕組みを工夫
- ◆ 連携した教育の質向上の仕組み

モニタリング実施の背景

キャンパス・アジアと質保証

日中韓政府

- ◆ パイロットプログラムの選考に際し、共同ガイドラインを策定
日中韓の質の保証を伴った大学間交流に関するガイドライン（2010年12月）

日中韓の質保証機関

- ◆ 日中韓質保証機関協議会を設立（2011年3月）
 - 日本: 大学評価・学位授与機構（[NIAD-UE](#)）
 - 中国: 教育部高等教育教學評価センター（[HEEC](#)）
 - 韓国: 大学教育協議会・大学評価院（[KCUE](#)）
- ⇒ 各国の質保証システムの相互理解
- ⇒ 3か国の大学間交流を質保証の側面から支援

モニタリング実施の背景

日中韓質保証機関協議会

共通の課題認識

～国境を越えた連携・共同を伴う教育プログラムの質保証～

- ◆ 国際的な共同により質保証にも新たな観点が求められる可能性
- ◆ 複数国により提供される教育（共同プログラム等）は、国の質保証システムにとって新たな課題
- ◆ 第三者評価などの外部質保証システム側の体制を考えると、複数国の質保証機関が連携することや、分担を行って相互に承認するなどの方法が望まれる可能性



国際連携を伴う教育プログラムの質保証の仕組みの共同開発

モニタリング実施の背景

日中韓質保証機関協議会

キャンパス・アジアのパイロットプログラムに
おける教育の質保証の取組みを共同モニタリングし、
国際連携を伴う教育プログラムの質保証を試行

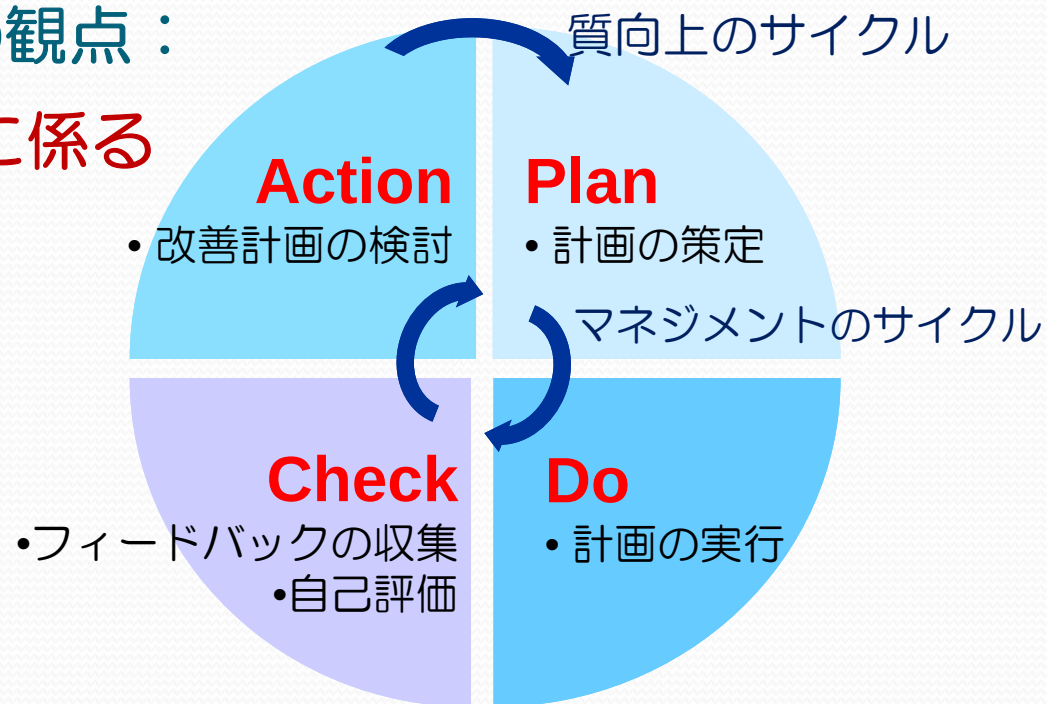
キャンパス・アジア のモニタリング



キャンパス・アジアのモニタリング

質保証モニタリングでの観点：

教育プログラムの展開に係る
PDCA



＜参考＞大学の世界展開力強化事業における「中間評価」の観点
・・・補助事業としての計画の実施状況、補助金の使用状況

キャンパス・アジアのモニタリング

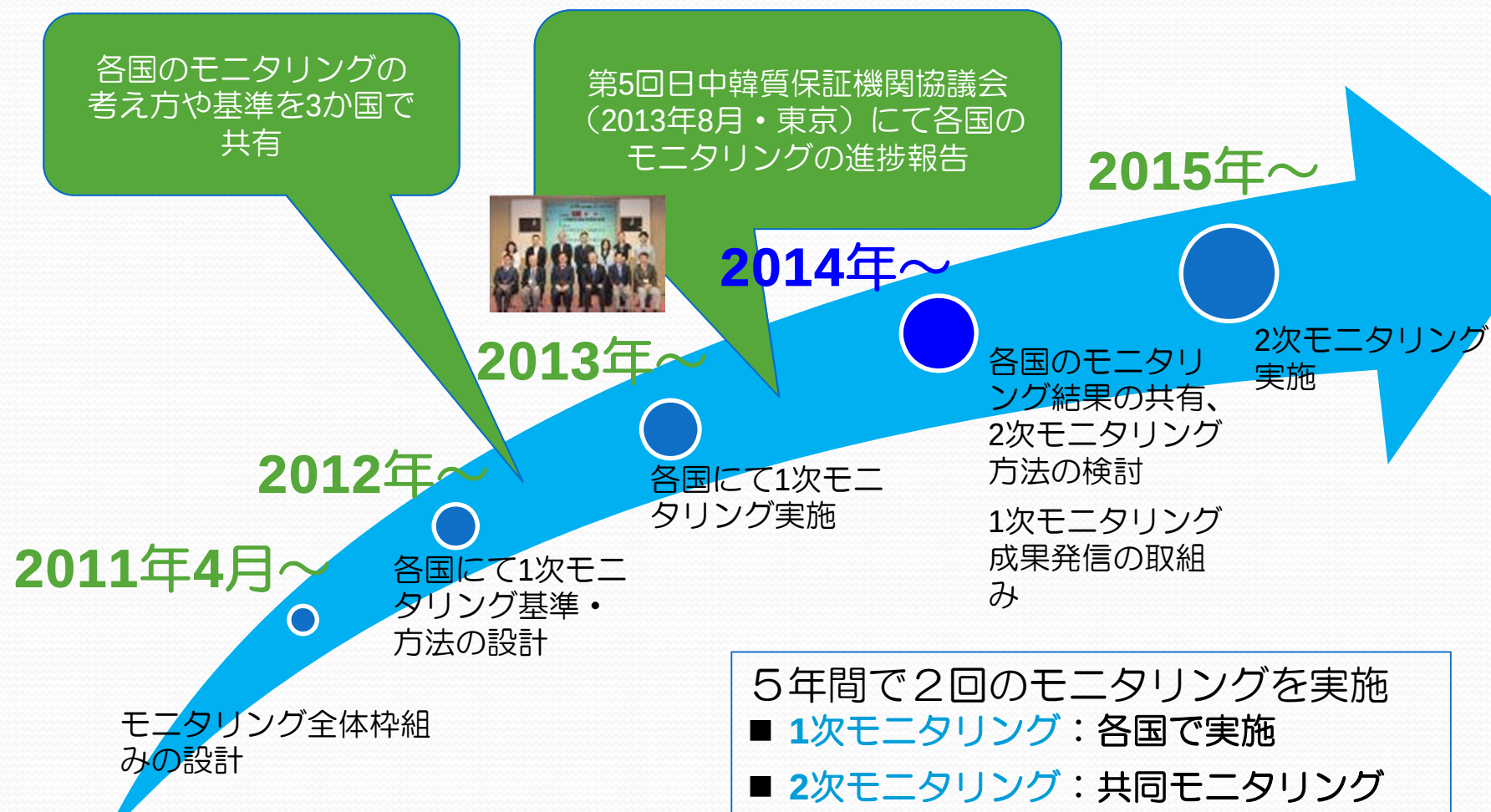
モニタリングの目的:

- 教育の質の観点からの優良事例を把握し、広く大学関係者が参照できるように、これらの情報を普及
- 日中韓の質保証機関が活用できる、国際連携を伴う教育の質保証に関する共同ガイドラインを作成



東アジアの高等教育の質保証・質向上を促進する
体制構築

モニタリングのスケジュール



日本の1次モニタリング - 手法、基準、 スケジュール



日本の1次モニタリングの手法

- 平成24年度 : 採択校との意見交換（計3回の連絡会）
モニタリング準備委員会（計3回）
- 平成25年4～5月 : 大学側の自己分析（自己分析書の提出）
- 平成25年6月～ : 書面調査
- 平成25年7～10月 : 個別の訪問調査
- 平成25年11月 : モニタリング報告書（案）の策定
- 平成25年12月 : モニタリング報告書（案）の大学側への提示
- 平成25年12月 : モニタリング学生部会ワークショップ
- 平成26年1月 : モニタリング報告書の確定
- 平成26年2月 : 採択校との連絡会＜結果の共有＞

モニタリング基準
に基づき自己分析

モニタリング学生部会



- 「キャンパス・アジア」モニタリング学生部会
- ◆ 3か国の計19人の学生で構成
 - ◆ 「キャンパス・アジア」についての学生ワークショップを開催（2013年12月 於：東京）
 - ◆ ワークショップの議論を「学生提言書」としてまとめ学生代表がモニタリング委員会で報告



学生部会ワークショップ当日の記録映像はウェブサイトからご覧になれます。
http://www.niad.ac.jp/english/campusasia/monitoring_student_committee.html

1 次モニタリング基準：3 国比較

3か国で基準の数は異なるものの、基準の基本構成はとても類似。
各国が基準のなかで重視する視点が異なっている。

日本	中国	韓国
1. 教育プログラムの目的	1. 目的	1. 教育プログラムの目的および実現に向けた取組み
2-1. 実施体制	2. 実施体制	2. 学生支援システム
2-2. 教育内容・方法	3. 教育の実施	3. 教育内容
2-3. 学習・生活支援	4. 学生支援	4. 学習成果
2-4. 単位互換・成績評価	5. 質保証	5. 質保証システム
3. 学習成果	6. 学習成果	
4. 内部質保証システム		

日本は、「単位互換・成績評価」を重視
(基準2-4)

韓国は、「学生支援」を重視
(基準2)

中国は、国際共同教育から得られる「付加価値」を重点的にみる
(基準1、基準6)

1次モニタリング基準：日本

基準	サブカテゴリー（優れた取組を抽出する視点例の要素）
1. 教育プログラムの目的	a) 教育プログラムの目的（育成する人材像を含む）〈視点例6つ〉 b) 教育プログラムの目的の大学間での共有 〈視点例3つ〉
2-1. 実施体制	a) 組織体制 〈視点例4つ〉 b) 教職員 〈視点例3つ〉
2-2. 教育内容・方法	a) 教育内容・教育方法 〈視点例7つ〉 b) 学生受け入れ 〈視点例3つ〉
2-3. 学習・生活支援	a) 学習支援 〈視点例6つ〉 b) 生活支援 〈視点例4つ〉
2-4. 単位互換・成績評価	a) 単位認定・互換 〈視点例2つ〉 b) 成績評価・学位授与 〈視点例4つ〉
3. 学習成果	a) 学習成果の測定と結果 〈視点例4つ〉 b) プログラム履修後の状況 〈視点例3つ〉
4. 内部質保証システム	a) 内部質保証システムの体制 〈視点例5つ〉 b) 改善実績・将来計画 〈視点例4つ〉

基準 2-2 教育内容・方法

目的を達成するために適切な教育内容や教育方法が共同して検討され、実施されているか。

＜優れた取組を抽出する視点の例＞

a) 教育内容・教育方法

- 育成する人材像（例えば、東アジアにおけるグローバル人材のニーズ）に期待される知識・スキル・態度等の学習成果に適合した教育内容を形成しており、そのことを自ら体系的に分析している。
- 学生が履修する教育内容について、参加大学の間でカリキュラム構成や科目の情報を共有するとともに、一つのプログラムとして統合的・体系的な構成となるように意図している。
- 国際的な共同を行うことによる教育面での付加価値や国際競争力の向上が明確になっている。
- 海外での企業や公的機関等によるインターンシップ等の、プログラム目的に即した効果的な教育方法がとられている。
- 各国の言語や文化・社会の教育が効果的に行われている。
- 英語での授業の実施など、外国人学生が履修しやすい教育方法の工夫が行われている。
- 学生が移動することに適した教育方法（e-learningの活用や教員が出向いて行う共同指導など）がとられている。

b) 学生受け入れ

- 学生選抜の方法（基準や選抜の体制）を教育プログラムの目的や教育内容を踏まえて、参加大学間で共同して設定し、運用している。
- 参加希望者が適切な人数存在し、参加学生数の双方向性（交流のバランス）が実際に確保されている。
- 実際に受け入れた学生の構成やその学力水準（語学力を含む）が、教育プログラムの目的や教育内容に適合したものとなっている。

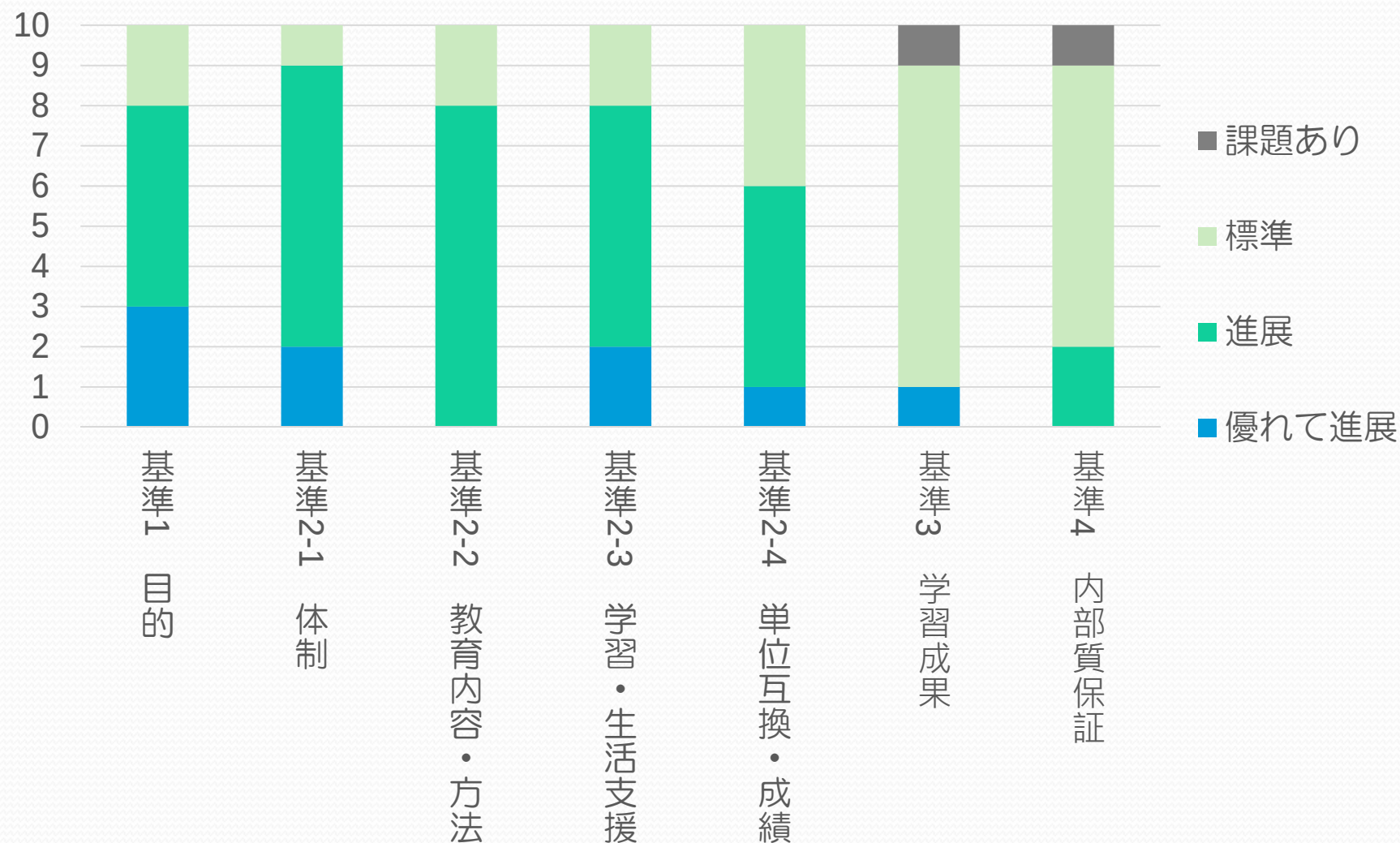
段階判定の尺度と説明（基準2－2 教育内容・方法）

尺度	各段階の説明
課題が残っている	- 各大学内にて開講されているカリキュラム構成や科目の情報が参加大学間で相互に<u>把握されていない</u>。教育内容と期待される学習成果との関係が<u>明確でない</u>。 - 学生募集の方法が<u>明確でない</u>。計画した<u>学生数が確保されておらず</u>、参加大学間で偏りがある。
標準的	- 参加大学間でカリキュラムや科目の<u>情報を常に把握し</u>、学生が履修する内容の<u>調整</u>を行っている。教育内容が期待される学習成果に即して構築されている。国際的な共同教育に<u>適切な教育方法がとられている</u>。 - 計画した<u>学生数が確保されており</u>、プログラムの教育内容を学ぶのに適切な学力水準（語学力を含む）が確保されている。
進展している	- 参加大学間でカリキュラムを<u>共同して検討し</u>、教育プログラムの目的を実現するために適切な教育内容となっている。<u>国際的な共同</u>を伴うことで実現しうる教育が行われている。国際的な共同教育に<u>有効な教育方法が工夫されている</u>。教育内容・方法と学習成果との関係が<u>明確に分析されている</u>。 - 計画した学生数が確保されており、参加学生の<u>選抜方針を調整して</u>各大学で実施している。
優れて進展している	- 参加大学が強みを有する内容を連携させるなどして体系的な教育内容を構築しており、国際的な共同教育によって、<u>国際的にも優れて特徴的なものとなっている</u>。教育内容・方法と期待される学習成果との関係の分析を行い、定期的に見直している。 - 志願者が量・質ともに高く、学生の選抜を参加大学間で共同して決定した方針・方法によって行っている。

日本の1次モニタリング 結果（概要）



日本の1次モニタリング結果： 基準ごとの4段階判定の分布



日本の1次モニタリング結果： 優れた取組みの例

参考：「優良事例集」

「モニタリングで抽出された「優れた取組み」と今後への期待」

http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/campusasia/

教育内容・方法（基準2－2）

- プログラムの設定における相互連携

参加大学間で共同の意思決定機関である委員会の設置

参加大学間で共通性の高いプログラムの実施（共通科目やCA用の科目等を設置）

移動キャンパス

- 特性や状況を意識したカリキュラム設定

各国や各大学の特徴を活かした内容（各国の歴史を当該国の教科書を用いて学ぶ授業など）

専門職人材としての育成像を強く意識した内容（国内外での実習・インターンシップの活用）

- 学生の状況やニーズを重視した内容

学生の状況に即したプログラム

研究活動を中心とするプログラムでの工夫

学習成果の証明における学生ニーズの把握（成績表における工夫、修了証の共同発行）

- 効果的な学習と相互理解のための方策

英語や現地語による授業の提供

派遣・受入のための事前学習やフォローアップ等

現地における語学・文化の学習等

日本の1次モニタリング結果： 今後の取組みに期待する点

参考：「優良事例集」
「モニタリングで抽出された「優れた取組み」と今後への期待」
http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/campusasia/

教育内容・方法（基準2－2）

- 目標とする学習成果の明示、教育内容・方法の共同の開発
より具体的な教育内容・方法へと、共同で検討・実施していくこと
- 相手大学との学位授与に関する情報共有
ダブル・ディグリープログラムにおいて、学位授与の審査を個別の大学が独立に行う場合には、参加大学間での審査基準や評価の観点等の情報共有がすすむこと
- 研究活動を中心とするプログラムでの工夫
学修の過程と成果に対する適切な評価と、それに基づく単位の授与のための参加大学間の協議検討をさらにすすめること
- 学生の参加と相互交流の促進
同国出身の学生のみとの共同学習が生じがちな傾向を避け、3か国の学生相互の交流が深化できるような授業の工夫

学生からの提案 (「キャンパス・アジア提言書」より)

http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/jckcouncil/no17_student_recommendations.pdf

学習面の改善点

- ✓ 派遣前の事前研修の実施
- ✓ 選択科目の拡充、他の授業への参加を認めてほしい
- ✓ 用意された授業以外にも単位交換できる柔軟なシステム
- ✓ スムーズに単位互換できる仕組み
- ✓ 留学先での学習をサポートしてくれる一貫した指導教員（アカデミックアドバイザー）の配置

生活面の改善点

- ✓ 留学先大学での責任者の明確化
- ✓ 奨学金支給のタイミングの改善（留学前に支給してほしかった）
- ✓ 現地の学生、「キャンパス・アジア」以外の学生と交流できる機会の拡充

その他

- ✓ 就職活動に影響が出ない仕組みとすること
- ✓ 「キャンパス・アジア」の制度そのものをもっと周知すべき
- ✓ 異なる「キャンパス・アジア」の学生が交流する機会の拡充

中国・韓国 の 1次モニタリング



中国・韓国の1次モニタリング手法

中国：

- 自己評価、大学間の相互評価、専門パネルによるレビュー、報告書作成
- 電話インタビュー（訪問調査の実施はなし）

韓国：

- コンソーシアム連絡会、自己分析、書面調査、訪問調査、報告書作成
- 自己分析書を重視。モニタリング実施前にコンソーシアム連絡会を開催し、自己分析書の書き方を説明
- プログラム選定者がモニタリング委員。全ての訪問調査に参加

1 次モニタリング基準：中国

Criteria	descriptions
I. Goals and Objectives	3 descriptions related to: Consistency with the contextual general goals of talent cultivation; goals based on analysis of the academic quality of the university; goals leading to double degrees/joint degree
II. Organization & Implementation	4 descriptions related to: Resources on/off campus to guarantee its implementation; written documents with partners; establishment of steering committee; goals and objectives are fully understood by personnel at different levels in the university
III. Teaching	4 descriptions related to: Curriculum design, a faculty team, cultivation of innovation and practical abilities of the students; a pedagogic and teaching methods
IV. Student Support	5 descriptions related to: Good learning environment; students' rights and obligations; language training classes; cross-culture exchange; respect foreign students' ethnic culture, national sentiments, religious belief
V. Quality Assurance	6 descriptions related to: Effective IQR systems; definite quality standards for all the work; regular inspection of the implementation of the project; a routine quality control of the teaching processes; assessment of the personnel; quality analysis; external panel for audit
VI. Learning Outcomes	5 descriptions related to: Scientific assessment system of learning outcomes; credit transfer system; satisfaction survey among students; a follow-up system for the graduates; a result of the evaluation of the learning outcomes and surveys

1次モニタリング基準：韓国

Criteria	Sub-criteria
1. Purpose of the Academic Program and Efforts of Fulfillment (10%)	1-1 Validity
	1-2 Efforts of Achievement
2. Student Support System (20%)	2-1 Admission System
	2-2 Campus Life Support
	2-3 Learning Support
3. Contents of Academic Program (30%)	3-1 Design & Management of Curriculum
	3-2 Design & Management of Extracurricular Activities
	3-3 Grading System & Credit Transfer
4. Learning Outcome (20%)	4-1 Academic Achievement
	4-2 Student Satisfaction
5. Quality Assurance System (20%)	5-1 Self-Review
	5-2 Quality Improvement Cooperation System

中国の1次モニタリング結果（概要）

（報告書の結論部分より主なもの）

「目的設定」

- ほとんどのプログラムで、3か国の協議による明確な人材目標を設定
- 各プログラムにおいて、国際的な教育プログラムの特色性と付加価値がみとめられる

「実施体制」、「教育」

- ほとんどのプログラムにおいて、基本的な組織・実施と教育活動が良好に実施

「学生サポート」

- ほとんどのプログラムで、学生にとって満足な支援システムを整備
学習指導や相談サービス等「ソフト」面ではまだ整備すべき点がある

「質の保証と学習成果」

- 全体的に今後の取組みに期待
プログラムの実施プロセスにおいて、「質」、「学生の発展」、
「学習成果の到達」の意識をしっかりとつことが必要

韓国の1次モニタリング結果（概要）（1）

（報告書の序論・結論部分より主なもの）

「キャンパス・アジア」の成果：

（個別大学レベルで実施されている既存の交換留学プログラムと比較して、
「キャンパス・アジア」パイロットプログラムの妥当性はどうか）

- 日中韓の大学の在学生間の交流が本格化。共同学位プログラムをはじめ、システムティックな学生交流が可能な土台作りが進展
- 参加学生は「キャンパス・アジア」をポジティブに評価
- 「キャンパス・アジア」を通じて優秀な学生を受入れ。大学広報のための主要戦略として活用しており、地方大学の特性化における良い事例としても評価できる
- 夏学期を活用した集中プログラムを開発、日中韓参加大学間の相互交流を促進
- 教員間のチームティーチングを通じた相乗効果をもたらされ、これまでにはなかった新しい学習モデルを産み出せるなど、スローガンではなく可視的成果のある実質的教育協力を見出すことができた
- 日中韓の大学が共同開催する国際学術大会を通じて教員のみならず大学院生が参加、研究結果を共有
- 日中韓の共通の関心事が強調され、これを反映した共通科目開発の努力が加速化
- 国際的な高等教育の質保証、単位・学位認定に関する政府／質保証機関、個別大学レベルの進展した議論が展開

韓国の1次モニタリング結果（概要）（2）

（報告書の序論・結論部分より主なもの）

「キャンパス・アジア」の効果を高めるために工夫が必要な点：

- CAの安定的な継続のため、多様なルートを通じて課題に取り組む必要
（例：学術セミナー開催、メディア活用）
- 3か国の政府レベルの積極的な努力。採択プログラムや大学レベルで解決できない制度的・政策的問題解決に取り組む必要
- 3か国の異なる制度により、最終目的とする共同学位をどのように実現するかについて時間をかけて工夫が必要。大学側のみならず、政府レベルの法的措置を含む協力と支援が必要
- 韓国側の採択プログラムで共通的に活用可能な学生満足度調査ツール（派遣・受入両方）の開発と定期的な実施。その結果を自己分析書に記載することで相互比較可能にする必要。
- CAの卒業生に対し、進路モデルを提示する必要。政府レベルでの積極的な支援も必要（例：CAに参加した学生が日中韓関連の国際機関に就職／インターンシップできる機会を与える）。これにより、CAの可視性を高め、参加を促す効果が得られると考えられる。
- 学生が修了後につながりを維持できる仕組み
（例：同窓会、プログラムレベルの共同ウェブサイト）

キャンパス・アジアの経験から見えるものは

国際共同教育プログラムの質とは？

学生経験の質向上に何が大切か？

- 「キャンパス・アジア」実施大学（プログラム）の経験
- 参加学生の経験
- 質保証機関の経験
- 「キャンパス・アジア」以外の国際共同教育プログラムの経験

ご清聴ありがとうございました

「キャンパス・アジア」モニタリング
ウェブサイト
(日本語版・英語版)を開設しています
[http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/
campusasia/](http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/campusasia/)

